

陳 述 書

平成 27 年 (2015 年) 9 月 11 日

明海大学名誉教授
山岸 勝榮(かつえい)

わたくしは山岸勝榮(やまぎし かつえい)と申します。本年 3 月末日をもって千葉県浦安市に所在致します明海大学外国語学部・同大学院応用言語学研究科教授を退任致しました。同大学には 27 年間勤務致しましたが、それ以前は法政大学非常勤講師・同専任講師・同助教授・同教授として 18 年間に過ごしました。わたくしはまた、学習研究社から刊行されております『スーパー・アンカー和英辞典』、『スーパー・アンカー英和辞典』、『アンカーコズミカ英和辞典』等の編集主幹を務め、現在に至っております。

大学教員生活は丸 45 間にわたりましたが、わたくしが非常勤講師として法政大学の教壇に立ち始めましたのが昭和 45 [1970] 年の 4 月で、朝日新聞の記者であった本多勝一氏による連載記事「中国の旅」が同紙上で始まったのがその翌年(昭和 46 [1971] 年 8 月)でした。26 歳のわたくしはそこに書かれた南京を初めとする中国大陆での日本軍の《残虐行為》を知り、大きな衝撃を受けました。当時すでに著名であった本多氏の記事でしたから、わたくしはその記事の内容を 100% 信じました。そしてそれはわたくしのその後の教員生活に大きな影響を与え続けました。本多氏の『中国の日本軍』(1972)も同様にわたくしに大きな衝撃を与えました。わたくしは「アサヒグラフ」、「週刊朝日」等の朝日新聞関連の雑誌が繰り広げる《日本軍糾弾》記事も全面的に信じ、何千人、何万人と言う膨大な数の学生諸君に「30 万人の南京大虐殺は実際にあった。」などと、《見て来たようなウソ》を教え、祖国日本と日本軍将兵を貶める発言を繰り返しました。ちなみに、わたくしは本務校以外に、慶應義塾大学を初めとする多くの著名な大学でも、長年、非常勤講師を勤めて参りましたから、教え子の数は合計すれば、優に数万人になります。

また、わたくしは、平成 3 [1991] 年に植村隆・朝日新聞記者(現在・北星学園大学非常勤講師)が朝日新聞紙上で報じたいわゆる《従軍慰安婦》問題に関する記事からも大きな影響を受けることになりました。その結果、祖国のために散華した多くの日本軍将兵を嫌悪するようになりました。わたくしが一人

の社会人であればわたくし一人の《精神的被害》で済んだわけですが、わたくしの立場が大学教員であり、45年の長きにわたり膨大な数の学生に口を極め、言葉を極めて日本軍将兵に関する《捏造事件》を《虚実入り混ぜて》話をしたわけですから、その罪業の深さは計り知れません。しかも、何十年間も朝日新聞の英語版、とりわけ「天声人語」の英語版(Asahi Evening Newsに掲載)を英語の授業の補助教材にしたり、そこから学期末試験の問題を作成したり致しました。「天声人語」欄の記事が全国の大学入試に頻出することは周知の事実だと思えます。

もう1点、実害の例を示しておきます。わたくしが編集主幹を務めております『スーパー・アンカー英和辞典』は初版が平成8[1996]年に出ており、第2版(平成13[2001]年)、第3版(平成15[2003]年)、第4版(平成21[2009]年)と改訂を続けておりますが、その第4版の名詞としての"rape"の項の用例に「the rape of Nanking [Nanjing] 南京大虐殺」が記載されております。この記載は第1版から第3版まではなかったものであり、編集主幹のわたくしにも全く記憶のない記述でした。そのことに今年の8月に気づきました。その記述の存在に気づいた時、わたくしは正直なところ、我が目を疑いました。なぜなら、その時にはすでに《南京大虐殺》なるものの多くが、実際には中国による《捏造》であることをYouTubeの動画や関連書籍等によって知っていたからです。

早速、学研辞典編集部に質しましたところ、元編集長であった某氏(現在は退職して嘱託社員)が《南京大虐殺》なるものの存在を信じ、わたくしに内緒で第4版の改訂作業の際に加筆したことを認めました。

わたくしの学習英和辞典だけでも全国の高等学校を中心とする教育機関で言えば、1年間に何万人という数の学習者が利用しております。それだけに、南京に関する誤った情報の記載は、公刊されている辞典としての社会的責任を免れません。編集主幹として、誠に申し訳なく、現在進行中の第5版のための改訂作業では削除致しました。

朝日新聞の、とりわけ本多勝一氏、植村隆氏の記事がもととなって国の内外に広がった実害はあまりにも多大だと思えます。当然、その大きく深刻な社会的責任は免れません。

以上、45年の長きにわたり、朝日新聞の《呪縛》によって、教壇から膨大な数の学生に対して《虚偽情報》を広めたわたくしの大罪を告白致しますと共に、わたくしの全教員生活を甚大に毀損した朝日新聞と同紙の発行元である朝日新聞社をここに告発致します。